

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：令和5年3月29日

事業所名：障害児通所支援 INGENU

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	今年度、より広いスペースがある施設への引っ越しを行い、十分なスペースを確保している。	はい:25 どちらともいえない:1 いいえ:0 わからない:2	新しい施設への引っ越しを行ったため、保護者からの評価がとてよくなり、今後もスペースを維持できるよう目指していく。
	2 職員の適切な配置	必要な職員は配置されており、専門的職員についても公認心理士やセラピストを配置している。	はい:24 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:4	前年度は「どちらともいえない」との回答が一定数おられたが、改めて保護者への説明を行い、ほとんどの保護者に理解していただくことができた。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	今年度、新しい施設に引っ越したことで、以前の施設にあった段差等は解消された。	はい:27 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:1	保護者からの評価は前年度と比べ大幅に改善された。今後も児童にとって快適な環境、設備整備を行っていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	今年度も新型コロナウイルスの影響があり、消毒等の感染対策を徹底している。新しい施設への引っ越しにより、児童同士が十分空間を確保したうえで活動を行うことができた。	はい:25 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:3	前年度より保護者からの評価は改善した。今後も安心して心地よく過ごせるような生活空間の確保を目指す。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	スタッフの人数が増えたため、組織としてどの役割を一人ひとりが認識して行動できるよう、面談の機会を増やした。		スタッフが個人の目標設定に向かって考えながら行動し、より良い施設になっていけるよう今後も目指していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施できていない		今後第三者の介入を必要に応じ検討する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	今年度も1人が児童発達支援管理責任者の研修に参加し、スタッフの専門性が向上できるような研修への参加を促した。		今年度もスタッフ一人ひとりの資質を向上していけるよう積極的な研修への参加を促し、機会を確保していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	利用前のアセスメント、定期的なモニタリングや会議によって児童、保護者のニーズや課題をしっかりと分析したうえで支援計画を作成している。		今後も適切なアセスメントやモニタリングの実施を心掛け、客観的に課題を分析し、療育を行っていくよう目指して行く。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	今年度は専門職員が増えたため、個別や集団での活動の幅が増え、色々な活動を組み合わせた支援計画が作成できた。	大半の保護者が「はい」との回答だが、「どちらともいえない」や「わからない」との回答もあった	継続して利用児童の人数や障害の特性に合わせて支援計画を作成し、個別や集団での活動を行っていく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	適宜モニタリングを行い、日々の様子を踏まえ、児童についての会議を行ったうえで計画書の内容を変更し、支援内容を記載している。		継続して具体的でわかりやすい内容を記載できるよう努める。
4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画に挙げられた課題やニーズに沿って、適切な支援を実施できるよう努めている。	はい:26 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:2	評価は良好であるため、継続して計画に沿った適切な支援を実施していけるよう努める。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	5 チーム全体での活動プログラムの立案	今年度はスタッフの人数が増えたため、組織としての役割を一人ひとりが認識し、全体で活動プログラムを立案していけるよう会議や話し合う機会を増やした。	大半の保護者が「はい」との回答だが、「どちらとのいえない」や「わからない」との回答もあった	今後も職員全体でのプログラムを立案していけるよう、会議や職員同士の意見交換を増やしていく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	日によって利用時間が違うため、時間に応じた支援を行うよう努めている。また、施設でより充実した時間を過ごしていただけるよう送迎時間や順番も工夫している。		継続して、利用する時間や利用人数に応じ、臨機応変に活動内容を変更する等、状況に応じたきめ細やかな支援を実施できるよう目指す。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	今年度はスタッフや専門職員が増えたため、新しい意見を取り入れながら新たなプログラムの立案を行っている。		今後も活動プログラムを工夫しながら様々なアプローチを行っていく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	前日に利用児童の確認をしっかりと行い、当日にもスタッフ同士での意見交換を行いながら適切な支援を実施できるよう努めている。		継続して支援開始前に活動プログラムや役割の確認を徹底し、児童に合った支援を行っていく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後に児童の様子や送迎時に保護者から聴取した内容を連絡ノートやグループLINEに記載し、休みのスタッフも情報が共有できるようにしている。		継続して支援終了後の連絡ノートやグループLINEによる情報交換を行い、気になった点については後日会議等で話し合って改善を目指していく。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	連絡帳を毎日複写にて残しており、トイレの時間やおやつ、活動内容を記載している。その他気になること等あれば、特記事項として記載するようにしている。		連絡帳にわかりやすく具体的な記録を書くよう徹底し、内容の確認、評価を行う。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	弊所独自の報告書を作成しており、モニタリング時に保護者への報告を行っている。モニタリング内容をスタッフで共有し、会議を行うことで支援計画書や報告書の見直しをはかっている。		現在も新型コロナウイルスの影響により、電話にてモニタリングを実施しているため、聞きたい内容等を事前にスタッフに確認し、漏れがないよう努めていく。
1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	今年度も弊社の障害児相談支援事業所を利用する児童が増えており、より詳しい担当者会議を行えるようになってきている。		継続して相談支援事業所への利用を促し、担当者会議等に積極的に参加していく。	
2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	毎週囁託医に来ていただいており、都度状況を報告している。担当医からのてんかんや熱発等、急変時に対する対応等を緊急連絡帳やアセスメントに記載いただくことでいつでも対応できるように努めている。		学校や保護者から変化があればすぐに連絡いただいております。今後も関係機関と連携した支援を実施し、安心して利用していただけるよう努めていく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	医療的ケアが必要な子どもに対して、看護師が保護者、医師に詳細を確認後、医療的ケアを実施している。		保護者から緊急連絡カードに主治医を記載いただいたり、急変時の対応方法を教えていただいているため、今後も看護師の指導の下、対応を徹底していく。
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	今年度も他の児童発達支援事業所からの移行支援はみられなかった。		今後、移行依頼や弊所からの移行がある際は、学校からの情報や事業所の支援内容を十分に聴取し、円滑に移行支援を行っていけるよう目指して行く。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	今年度は弊所からの卒業生がおられ、卒業後の進路先である生活介護事業所との打ち合わせや情報提供を入念に行っている。		弊社の生活介護事業所への移行のため、保護者も比較的安心していただいている。今後も安心して進路先に進んでいただけるよう情報提供を徹底していく。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修には参加できていないものの、支援センターと児童についての情報交換を行っている。		来年度は外部の施設から紹介される研修等を積極的に受講していく。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	普段は各児童がそれぞれ他の学校との交流会などに参加しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、中止となった	はい:5 どちらともいえない:1 いいえ:5 わからない:17	今後事業所として、必要に応じて保育所や児童館と交流していけるような機会を作っていく
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	今年度は新しい施設に引っ越したため、地域住民の方々に挨拶を行い、施設の説明、理解を求めた。	チェック項目に記載されていないため、回答なし	来年度は地域住民の方々を招待できるイベントの企画や、地域でのイベントに参加していけるよう目指していく。
	保護者への	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に支援内容や利用負担等について詳しく説明しており、支援計画を変更する時や受給者証更新時自己負担額に変更があった場合はその際に説明している。	はい:25 どちらともいえない:0 いいえ:2 わからない:1
2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		弊社独自の個別支援報告書を作成しており、モニタリング時に報告している。その後、個別支援計画書を作成し、保護者に支援内容を説明して納得いただいてから署名、捺印をいただいている。	はい:21 どちらともいえない:4 いいえ:2 わからない:1	「どちらともいえない」や「いいえ」の評価があるため、再度計画書についての丁寧に説明を徹底し、理解していただけるよう努めていく。
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		現在はまだ実施できていない。	はい:13 どちらともいえない:4 いいえ:5 わからない:6	新型コロナウイルスの影響が落ち着き次第、保護者学習会等を企画していく。
4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底		モニタリング時だけではなく、送迎時等、普段から保護者としっかり話し合い、児童の状況を把握できるよう徹底している。	はい:28 どちらともいえない:0 いいえ:0 わからない:0	すべて「はい」の評価をいただいております。継続して保護者との連絡を密にとりながら日々の状況についての共通理解を徹底していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
説明責・連携支援	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者から、利用児童だけでなくその兄弟や姉妹の悩み等についても、状況に合わせて助言や相談を行っている。	はい:23 どちらともいえない:2 いいえ:1 わからない:2	保護者から相談しやすい環境を作り、適切な対応や助言ができるよう早急を目指して行く。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	今年度は新しい施設への引っ越しを行ったため、施設全体で夏祭りを開催し、保護者を招待するとともに保護者同士の交流、連携を支援した。	はい:7 どちらともいえない:6 いいえ:4 わからない:11	「はい」の評価が少なく、夏祭りに来られなかった保護者がおられたことと、保護者会という認識が十分されなかったためと考えられた。来年度は保護者会を開催し、保護者同士の連携を支援していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応マニュアルを作成しており、迅速に対応するよう心掛けている。	はい:15 どちらともいえない:2 いいえ:1 わからない:10	継続して適切な苦情に対する対応ができるように体制の整備に努める。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	利用児童の障害によって、サインやジェスチャーでの意思疎通や情報伝達を行う等の工夫をしている。	はい:24 どちらともいえない:2 いいえ:0 わからない:2	評価は良好であるため、今後も個々の利用児童または保護者の障害について十分配慮しながら意思の疎通を行っていく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	今年度は3年ぶりに遠足に行けたため、それについての連絡体制や情報の発信を行った。	はい:16 どちらともいえない:4 いいえ:1 わからない:7	ホームページが新しくなったため、頻繁な更新を目指し、児童や保護者への発信を増やしていく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	契約時に、個人情報保護に関する書類を説明した上で、署名・捺印をいただいている	はい:23 どちらともいえない:2 いいえ:0 わからない:3	継続して個人情報の取り扱いに十分注意していく。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応、災害、感染症についてマニュアルを作成しており、毎年研修に参加後、職員全員に勉強会を実施し研修記録を残している。	はい:15 どちらともいえない:5 いいえ:1 わからない:7	マニュアルは作成しているが、知らない保護者もいるため、周知徹底をはかる。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	防犯訓練は、避難場所の小学校に協力していただき実施しているが、まだ新しい施設に引っ越ししてからの避難訓練は行っていない。	はい:15 どちらともいえない:2 いいえ:1 わからない:10	早急に新施設からの避難場所への避難訓練を実施し、非常災害で安全な対応ができるよう徹底していく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	神戸市の虐待防止の研修に参加した後、その内容をスタッフ全員に研修し、伝達を行っている。		来年度も、年一回以上の虐待防止研修を徹底し、知識を再確認したり、新しい知識を共有する。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束は行っていない		今後も身体拘束を行う予定はないが、もしもやむを得ない場合があった場合は、十分に保護者の理解を得てから行うよう徹底する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	卵アレルギーのある児童がいるため、他児と一緒に食事する場合、出来る限り距離を離し、常にスタッフが間に入り、間違って口に入れてしまわないよう見守りを行っている。		今後も定期的アレルギー反応が生じた際の対応方法の研修を行い、対応を再確認していく。
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	些細なことでもヒヤリハット報告書を記載するようスタッフに周知している		ヒヤリハット事例を増やし、アクシデントが起こる前に未然に防げるよう常に会議などで事例検討を実施する。